

シラフヨツボシヒゲナガカミキリ

エゾマツやトドマツの幹や丸太から木くずがでる。樹皮下や材内に細長い白いイモムシ（幼虫）。最大長約70mm。材に楕円形の穴が開く。長径最大10mm。普通、丸太や倒木に発生し、材質を不良にする。こくまれながら衰弱した木を加害し、枯らすこともある。

成虫はカミキリムシ。体長20～35mm。体は黒い。雄ではさやばねの先端が黄色っぽくなる。雌ではさやばねに白い複雑な斑紋がある。エゾマツやトドマツの枝先の樹皮を食べ、枝先を枯らすことがある。土場周辺で多発する。

【学名】 *Monochamus urussovii*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），カミキリムシ科（Cerambycidae）

【分布】 北海道；ユーラシア大陸北部。

【生態】

エゾマツ，アカエゾマツ，トドマツに多い。カラマツにも寄生するといわれる。

卵から成虫まで北海道では普通2年かかる。成虫は6～9月に出現し、針葉樹の小枝の樹皮を食べる。

雌成虫は樹皮にかみ傷を付け、そこに1個ずつ卵を産む。幼虫は最初は形成層付近を食べるが、成長すると材内に穿孔する。材表面から中心に向かい10cmほどまで穿孔する。

【被害と防除】

山土場に集積した丸太の材質劣化を引き起こす。成虫が出現、産卵する6～9月は伐採は行わない、また、この時期は丸太を林内や山土場に置かないようにして予防する。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 小泉力. シラフヨツボシヒゲナガカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 179-180. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

シラフヨツボシヒゲナガカミキリ kamikiri/sirafuyo/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/24.